

2019年第3回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2019年12月4日(水) 14:00～18:45

場 所：ガーデンエアタワー 28F プレゼンテーションルーム A

出席者：尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、大鐘札幌支部 Chair、末松仙台支部 Secretary、加藤信越支部 Chair、徳田東京支部 Chair、宇佐見東京支部 Vice Chair、穂積名古屋支部 Chair、梅田関西支部 Vice Chair、野口四国支部 Chair、大久保広島支部 Chair、谷口福岡支部 Chair、福田 COC Chair、梶川 SAC Chair、桑原 AC Chair、山田 IPC Chair、津田 Past Chair、杉江 Past Secretary、眞田 Past Treasurer、白川 HC Chair、重松 LRSC 委員、竹村 YP Coordinator、福田 President-Elect、南 MGA ARC Chair、西原 R10 Director、矢野 R10 WIE Committee Chair、百武オブザーバ、事務局、セクレタリアシスタント、書記

議題：

1. 前回理事会議事録の確認（審議） 資料（1）
2. 2019年 Japan Council 活動報告 資料（2）
3. 2019年 Japan Council 決算予想 資料（3）
4. 常設委員会 2019年活動報告、2020年活動計画案および予算案
 - 4-1 Chapter Operations Committee 資料（4-1）
 - 4-2 Student Activities Committee 資料（4-2）
 - 4-3 Awards Committee 資料（4-3）
 - 4-4 Industry Promotion Committee 資料（4-4）
5. Ad-Hoc 委員会 2019年活動報告、2020年活動計画案および予算案
 - 5-1 Long Range Strategy Committee 資料（5-1）
 - 5-2 History Committee 資料（5-2）
6. Affinity Group 2019年活動報告、2020年活動計画案および予算案
 - 6-1 Women in Engineering 資料（6-1）
7. Coordinator 2019年活動報告、2020年活動計画案および予算案
 - 7-1 MD 資料（7-1）
 - 7-2 YP 資料（7-2）
 - 7-3 LMAG 資料（7-3）
8. 2021/2022 役員選挙スケジュールおよび Nominating Committee 選出（審議）資料（8）
9. 各支部 2019年活動計画および前回理事会以降の活動報告
 - 9-1 札幌支部 資料（9-1）
 - 9-2 仙台支部 資料（9-2）

9-3 信越支部	資料 (9-3)
9-4 東京支部	資料 (9-4)
9-5 名古屋支部	資料 (9-5)
9-6 関西支部	資料 (9-6)
9-7 四国支部	資料 (9-7)
9-8 広島支部	資料 (9-8)
9-9 福岡支部	資料 (9-9)
10. 2020 年 Japan Council 活動計画 (審議)	資料 (10)
11. 2020 年 Japan Council 予算 (審議)	資料 (11)
12. その他	
12-1 TENCON2020 の準備について	資料 (12-1)
12-2 MGA Awards and Recognition Committee 関連の情報	資料 (12-2)
12-3 Section 支援費の考え方 (審議)	資料 (12-3)
12-4 Japan Council 旅費規程について (審議)	資料 (12-4)
12-5 IEEE 事務局 IT 化推進とメール配信ガイドラインについて	資料 (12-5)
12-6 Japan Office からの紹介	資料 (12-6)

[参考] メール審議報告

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

議事：

0. Chair ご挨拶

開会のご挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認 (審議) 【審議→承認】 資料 (1)

前回理事会(2019年7月)議事録確認があり、異議なく承認された。

2. 2019 年 Japan Council 活動報告 資料 (2)

年間活動報告があった。Japan Council理事会を3回開催、常設委員会の活動として、Chapter Operations Committee (COC)、Student Activities Committee (SAC)、Industry Promotion Committee (IPC)、Awards Committee (AC) について、Ad-Hoc 委員会の活動として、Long Range Strategy Committee (LRSC)、History Committee (HC) について、また、Affinity GroupおよびJC Coordinatorの活動報告があった。国内学会との協力関係の推進として、MOU更新作業を継続した。その他、10月5日に東京にてIEEE Day 2019のイベントを実施した。

3. 2019 年 Japan Council 決算予想

資料 (3)

決算予測の報告があった。支出の部では SB 支援費、WIE、COC 等で報告待ちまたは審議中の案件を含む。審議中案件が実施されたのちに黒字になる見込みである。また、承認済みだが未払いの案件があり、予算との差額が生じていると補足があった。信越支部から新規に Section 支援費申請があり、2019 年開催なので本理事会で審議、承認頂きたいと発言があり、異議なく承認された。

4. 常設委員会 2019 年活動報告、2020 年活動計画案および予算案

4-1 Chapter Operations Committee

資料 (4-1)

2019年活動報告と2020年活動計画の説明があった。2019年の活動として、2019年11月末現在のChapter支援費の申請ベースでの実績額、Awardは23のChapterから36件の登録があったこと、Chapterホームページ運用状況を把握し積極的な運用を要請したことが報告された。2020年の重要課題への対応として、一事業当たりの支援額の上限を設定して運用を継続すること、Chapter毎の会員数、Activityの高さと実績に応じ、公平感のある支援分配を行うことが報告された。

また、Chapter支援費ガイドラインのレンタカー利用について、制限付きで利用を認めることが報告された。レンタカー利用にあたり、JCならびにCOCは有事の際の一切の責任を負わないこととしているが、COCはレンタカー利用による保険代金を支払うこと、保険代金の支払いについてガイドラインに掲載することは可能か、また、IEEEはボランティアをどのように考えているか質問があり、IEEEはボランティアに対してTravel Insuranceを提供しており、有事に対する基本的なカバーができていたことが回答された。IEEE Travel Policy等の規定を確認し、共有することが提案された。

Chapter支援費のSection移行については、アンケートを実施したが、全Chapterから回答を得ていないことや意見調整も必要なことから、今後も継続して検討をすることが報告された。

4-2 Student Activities Committee

資料 (4-2)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、TENCON2019 Special Industry Track への派遣、新規 SB2 件の設立について報告があった。2020 年活動計画について、IEEE Student Branch Leadership Training Workshop の大阪開催、学生ランチ新設の促進、学生ランチの継続的活動の支援、R10 におけるイベントならびに海外支部とのイベントを通じた学生交流支援、支部 SAC との連携強化、を予定する。また、Probation についてはベストプラクティスのようなものの共有もあるとよいと発言があった。

4-3 Awards Committee

資料 (4-3)

活動状況の報告があった。JCAC の全体会合を 11 月 14 日に開催し、受賞数の推移の分析、各賞の推薦状況に関するノウハウ共有を行った。

R10 の状況として日本から 8 名程度フェローに昇格すると補足があった。また、COC では全 Chapter の Chair を集めた会議を 6 月と 11 月の年 2 回開催しており、これに合わせて何か一緒にやる計画を立案、その場で情報共有や呼びかけができるよう具体的な方法をとってもらえると有効と思うと発言があった。

4-4 Industry Promotion Committee

資料 (4-4)

2019 年活動報告および 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、MAW2019 支援(情報共有)、TENCON2019 SPECIAL INDUSTRY TRACK (SIT) 情報共有、ISCAS2019 での R10 Industry Forum、R10 Industry Relations Committee (IRC) など情報共有、企業会員にとっての IEEE の価値や企業会員増強施策について議論を実施した。企業会員のメリットについては議論を進めて課題を抽出できたが、具体的な施策にまで至っていない。

2020 活動計画について、MAW2020 支援、TENCON2020 SIT 支援、その他 TENCON2020 連携施策検討 (若手対象の論文講座等)、IEEE 企業会員増強施策の具体化、TENCON2020 大阪開催の年でもあるので、Japan Office や JC 幹部、MD とも協力した IEEE 企業会員増強を予定する。企業会員獲得の施策として、IEEE 2020 T-Shirts の作成と配布、日本語による IEEE 2020 PR チラシの作成、企業見学会・意見交換会の実施を進めていきたい。

5. Ad-Hoc 委員会 2019 年活動報告、2020 年活動計画案および予算案

5-1 Long Range Strategy Committee

資料 (5-1)

第 3 回 IEEE Japan Council Long Range Strategy Committee 委員会議事録の説明があった。2020 年の予算案や旅費規程、Japan Council Nominating Committee の規程作りについての議論を進めた。また、LRSC として長期的検討課題と短期的検討課題のそれぞれを議論した。

5-2 History Committee

資料 (5-2)

2019 年活動報告および 2020 年活動計画の説明があった。Milestone の状況について、12 月 18 日に富士通が HEMT の Milestone を受賞した。現在 3 件の申請があり、全件アドボケートが決定している。Milestone の発掘については、5 件の申請準備が進んでいると報告があった。

6. Affinity Group 2019 年活動報告、2020 年活動計画案および予算案

6-1 Women in Engineering

資料 (6-1)

2019 年の活動として、委員会、役員会、主催イベント 3 件、共催イベント 5 件を実施したことが報告された。JC WIE の支部移行が 2019 年中に完了できなかったため、2020 年も継続して取り組むこと、各支部に WIE 設立の意向調査を行うことが報告された。またこれに伴い、JC WIE 執行部は支部移行完遂まで、現在の体制で任に当たることが報告された。

7. Coordinator 2019 年活動報告、2020 年活動計画案および予算案

7-1 MD

資料 (7-1)

2019 年活動として、Japan Office と連携し、MD kits を利用した会員獲得の展開を積極的に進めたところ、各 Chapter の 18 行事で使用されたこと、JC MD WEB 会議を開催し、課題の共有や意見交換を行ったことが報告された。2020 年の活動として、各支部 MDC との情報共有、Japan Office や他 Committee との連携を継続することが報告された。今後 SAC ならびに YP とともに直接的、計画的な連携を行っていく。

7-2 YP

資料 (7-2)

2019 年活動概要と 2020 年計画について報告があった。2019 年活動概要として、R10 Conference Leadership Program に参加したこと、青森県むつ市第二田名辺小学校における出張授業を開催したこと、TENCON2019 では現地 YP との交流においてハッキングコンテスト YESIST について日本での実施方法を具体的に議論できたこと、Japan SYWL WS を開催したこと、11th キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストを開催したこと、仙台支部 YP が 6 月に立ち上がったことが報告された。

2020 年計画について、YP Affinity Group の拡大、YP 活動の更なる発展を目標に、R10 SYWL Congress2020・TENCON2020・MAW2020 への参加、Pre university 層に対する出張授業開催、12th キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテスト開催、YP ボランティア募集の呼びかけを行う。TENCON2020 では、海外 YP を巻き込んだ WS の併催を計画しており、予算は YP Global Fund より獲得予定であることが報告された。

TENCON2020、Section Congress 2020 などにおいて、YP に限らず JC として存在感を示せる活動をお願いしたいと意見があった。

7-3 LMAG

資料 (7-3)

本年発足した Sendai LMAG と、10 月 30 日に Korea University にて開催された Seoul LMAG の設立記念イベントに、LMAG Coordinator が招聘され講演した。また、JC LMAG メンバー数の割合や、IEEE 全体における LMAG の状況の報告があった。

8. 2021/2022 役員選挙スケジュールおよび Nominating Committee 選出 (審議)【審議→承認】

資料 (8)

選出は MGA Operation manual、Japan Council Bylaws、JC 運営の細則にしたがって行う。今までの細則等を補足する意味で NC の運営の細則として提出した資料に沿い、Committee の構成、役員候補者の推薦人、選挙の手順について審議がなされ、異議なく承認された。

承認を受け、役員選出のスケジュール説明があった。Past Secretary が NC Chair に指名され、承認された。また、Chair、Past Chair、福岡支部 Chair に NC 委員をお願いすることになり、了承された。

9. 各支部 2019 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

9-1 札幌支部

資料 (9-1)

2019 年活動状況報告と 2020 年事業計画案の説明があった。室蘭工業大学 SB 設立イベントに参加、本イベントは北海道大学 SB と合同開催で北海道大学からも参加があり、学生 30 名、教員 10 名が参加、札幌支部としては大きなイベントであった。本イベント後、新規入会が 20 名程度あり、SB 設立が非常に役に立った。

9-2 仙台支部

資料 (9-2)

2019 年事業報告と 2020 年事業計画の説明があった。2019 年事業として、MAW 2019 in Sendai、SYWL WS 共同参画、Sendai LMAG 設立記念シンポジウムの報告があった。アンケートを実施し、結果は好評であった。また、電気関係学会東北支部連合大会企画セッション、Sendai YP 設立、「R10 Best Membership Retention Medium Section Award」の受賞、「2019 Outstanding Section Membership Retention Performance」および「2019 Outstanding Section Membership Recruitment and Retention Performance」の認定などが報告された。2020 年事業計画では、WIE・LMAG・YP・SB の連携、合同事業などの検討を行う。

9-3 信越支部

資料 (9-3)

2019 年活動状況報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、役員会を 3 回(4 回目は未定)、IEEE セッションおよび学生表彰、長岡技術科学大学と新潟大学でディスカッション、電子情報通信学会・信越支部大会にて SSB ポスターセッション、Joint Workshop of IEIE JB and IEEE Shin-etsu SSB(12 月予定)、ほか講演会を実施した。予算執行状況はほぼ例年通りである。2020 年活動計画では、例年同様の実施を計画している。予算案は例年通りである。

9-4 東京支部

資料 (9-4)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、理事会・支部講演会の実施、Tokyo SYWL WS & IEEE Day Party 2019 開催、YP イベント、LMAG イベントの実施などが紹介された。12 月 18 日に「HEMT」Milestone 贈呈式を予定していること、IEEE Tokyo Bulletin No.119 およびメルマガを発行した。2020 年活動として、理事会・支部講演会の開催、SB・JC WIE との世代・分野・所属を超えた連携・交流を推進、Milestone 認定支援、IEEE Fellow の推薦支援、会員数の増強、Industry Promotion 活動の強化などを行う。

9-5 名古屋支部

資料 (9-5)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、役員会・授賞活動の実施、Milestone の申請や準備、WIE 設立記念イベントの開催、日本ガイシと豊田中央研究所の 2 社に対する IEEE MGA Award 授与申請が IEEE 本部より承認され、12 月 14 日に授与式を開催予定、Convence 2021 誘致検討、LMAG-Nagoya シンポジウムの開催、企業見学イベントを

実施した。2020年の活動は、Fellow Nomination と Senior Member への昇格、IEEE 名古屋支部学術奨励賞の拡充、SB 新設、WIE の支援、Milestone の申請、など概ね 2019 年と同じである。

9-6 関西支部

資料 (9-6)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動報告について、現時点の財政状況に比較的余裕があることを踏まえ、新規イベント 2 件を期中に企画し実施した。2020 年活動計画について、繰越金を有効に使い、支部の活性化あるいは会員増強に焦点を当てて取り組む。2019 年度に試行した新規イベントを定着させ、さらに新たな取り組みを検討する。2020 年予算計画について、2019 年新規 2 イベントの規模を拡大、Section 支援費を充てて実施し、活動を活性化していきたい。

9-7 四国支部

資料 (9-7)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年活動として、総会を実施、講演会を開催、英語ブラッシュアップセミナーを香川大学、愛媛大学、徳島大学にて 3 回開催した。2019 年予算実行状況は例年通りである。支出のうち、CAS Chapter Rebate の実績が空欄であるが 12 月上旬に執行されている。2020 年活動計画の目玉として、2020 年 12 月 8 日～11 日、かがわ国際会議場にて開催される国際会議 IEEE TALE2020 を共催する。

9-8 広島支部

資料 (9-8)

2019 年活動報告と 2020 年活動計画の説明があった。2019 年は、講演会、国際会議・シンポジウム後援、IEEE 広島支部学生シンポジウム(HISS)の主催、MAW2020 開催に向けた課題検討を実施した。2020 年活動計画は 2019 年とほぼ同じである。本理事会で MAW2020 開催承認を得たので進める。日程は 10 月 16 日、10 月 9 日、11 月 27 日を候補としている。予算案には MAW2020 関連は含まれず、別途計上する。

9-9 福岡支部

資料 (9-9)

2019 年年間活動報告と 2020 年年間活動計画の説明があった。2019 年活動で特筆すべきものとして、申請予定の IEEE Okinawa Chapter 準備会として、2019 沖縄未来半導体研究会を実施した。9 月に琉球大学の先生達を中心にした Chapter が一つ立ち上がった。2020 年年間活動計画は 2019 年同様の活動を予定する。予算も例年通り。会員数が少なく、WIE も他支部との Joint が必要、また SB も 2 つなのでもう 1 つ増やしたい。2020 年 JC 第 2 回理事会を 7 月 31 日に沖縄で予定している。

10. 2020 年 Japan Council 活動計画 (審議) 【審議→承認】

資料 (10)

資料説明があり、異議なく承認された。2019 年活動計画と共通部分が多いが、WIE 活動の支

部移行の完遂、財務管理の強化に基づく予算の一層の有効活用、運営フローの改善等による活動関係組織や事務局の業務効率化、TENCON2020の支援を追記している。国内学会との連携に関しては、更新されたテンプレートに基づきMOUの更新を行う。

主催/共催/協賛/後援の定義が明文化されていないため、共催/協賛という用語だけでなく、具体的な役務ごとに、契約面での条件を決めるというCOCでの検討を起点としてコンセンサスを図りたい。

11. 2020年Japan Council 予算（審議）【審議→承認】 資料（11-1）

資料説明があり、異議なく承認された。資料は繰越金の誤記を訂正、為替レートは103円/ドルで、SAの還元率は15%で立案している。支出は、役員改選やIPCの活動拡大に伴う理事会・各委員会費の増額、各活動拡大に伴うSB支援費とWIEの増額などが変更点である。MAW等は予算が確定してないため、予備費に計上している。2020年はRegion10の会議、Section Congress、TENCON等予定するが、見込みが立ってないため、予備費に計上している。Section支援費については、別途メールベースで意見を求めることとなった。

12. その他

12-1 TENCON2020の準備について 資料（12-1）

TENCON2020について説明があった。各支部に対し、MOUの支部内合意、TENCON2020 Japan Sections Supporting Committee委員に各Sectionあたり2名の選出依頼があった。会議概要、予算計画、およびCall for Papersの説明があった。WEBサイトは構築中で近日開設する。

MOUの早めの提出、WEBサイトの表示、IEEEポリシーにより非会員の会費は会員の120%以上になるようにすることなどの依頼があり、了承の旨回答があった。

12-2 MGA Awards and Recognition Committee 関連の情報 資料（12-2）

資料説明があった。2019 MGA Individual Awards および 2019 Friend of IEEE Member and Geographic (MGA) Activities Awards(追加分)受賞者選考のそれぞれについて、12月中旬までにMGAより結果発表予定である。

12-3 Section 支援費の考え方（審議）【審議→メール審議】 資料（12-3）

Section支援費の考え方の資料について説明があった。前回理事会で承認を受けたが、語句等に誤りがあり修正した。また、支部負担割合について、支部規模（Large/Middle/Small）に応じた割合とした。本案件は改めてメール審議とする

12-4 Japan Council 旅費規程について（審議）【審議→メール審議】 資料（12-4）

Japan Council 旅費規程についての資料について説明があった。宿泊費や交通費等について細かく提示することで規程を使い易くすることを狙った。支払いを受ける際には必ず領収書を提出

して頂きたい。また、本規定は JC の規定であって、支部内においては各支部で対応するよう
との説明があった。本案件は改めてメール審議とする。

12-5 IEEE 事務局 IT 化推進とメール配信ガイドラインについて 資料 (12-5)

IT 化推進については別途アンケートをお願いする、メール配信ガイドラインについては、問
い合わせを頂くので、誰がどのような配信ができるかの基準を具体化したと説明があった。

12-6 Japan Office からの紹介 資料 (12-6)

Office の沿革、スタッフ、主な活動内容、メンバーシップ、国内の各機関および団体との関係
強化、ボランティア支援と協働、2020 年の活動計画等の説明があった。

[参考] メール審議報告

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

[その他]

Region Realignment について報告があった。継続審議だが、R10 としては option2 (R10 を 2
つに分ける)、次いで option3 (R8 と R10 を 3 つに分ける) の順に支持を受けている。引き続きご
意見を伺うのでよろしくお願ひしたい。

Retreat は 1 月 18 日～21 日に博多にて実施すること、スマートフォンによる IEEE アプリの
紹介があった

2020 年第 1 回理事会は、4 月 8 日に開催することが周知された。

以上